

届く 広報

TODOKU
KOUHOU

今月のテーマ

ホームページを活用した実践事例

取材協力者の紹介



神奈川県三浦市社会福祉協議会
すぎさき ゆうこ
杉崎 悠子さん

社協VCでは広報誌を筆頭に、さまざまな広報媒体を活用し、社協VCを住民に知ってもらい取り組みを行っています。

しかし、数多くの広報媒体があふれる現状で何から手をつけて良いかわからない、...、そんなお悩みを解決するために、本コーナーでは、キャラクターやSNSやコミュニティFMなどの広報媒体を活用している実践例から、「広報」を効率的に行うためのヒントを探ります。



1 三浦市社協で、ホームページを導入したきっかけは？

三浦市社協は神奈川県内でホームページがない唯一の社協でしたが、2009年5月に策定された地域福祉活動計画に基づき、情報の共有化を図るために神奈川県下最後発で2009年11月にホームページを開設することになりました。

人口4万5千の市域の中には、限界集落化した地域も出てきており、過疎が進んでいます。こうした地域状況に鑑みたホームページを作成することになりました。



2 ホームページを活用した広報について教えてください。

地域状況に鑑みたホームページとは何かと考え、「顔が見えるホームページ」を心がけています。具体的には、掲載する担当者の顔と事業を結びつけることによって顔を覚えてもらい、名前はわからないけどこの人を頼って行けば、今の困りごとを解消するヒントが掴めると考えていただけるように工夫しています。これは、人口4万5千の市だからこそ有効な手段だと考えています。また、日々の活動を動きのある動画で配信することで、文字だけでなく、よりわかりやすい実際の映像で紹介しています。



3 ホームページを活用することのメリットは何ですか？

住民の方が担当者の顔と事業を結びつけることができることやブログ、広報誌と連動した広報ができることだと思います。幅広くホームページを閲覧いただく方に情報提供を行うだけでなく、市民の方の意見をいただいたりやアイデアを募集したりすることが可能だと思っています。

また、事業担当者が直接ブログ等の更新作業をすることで、職場全体が「見せよう」という広報への意識の向上につながっていると思います。



4 今後の展望・抱負について教えてください。

今後も顔が見えるホームページをはじめとした広報ツールを活用していくことで、社協の活動や職員の顔を覚えてもらい、住民の方々に頼ってもらえる社協を目指していきたいと思えます。



今月の届く広報へのヒント！

ホームページを活用する際に、文字だけでなく事業担当者の顔写真や活動の写真・動画を分かりやすく掲載することで、「顔が見える社協」を視覚的に伝えることができる。